

排水機場の耐震補強により、地域の排水機能を維持する

5か年加速化対策

災害時の効果発揮事例

概要 要: 令和6年1月1日の能登半島地震では志賀町で震度7を観測したが、事前に耐震補強を実施していた於古川左岸排水機場に被害は生じず、排水機能を維持した。

対策名: 91 農業水利施設等の老朽化、豪雨・地震対策<5か年加速化対策>【農林水産省】

■ 実施主体: 石川県

■ 実施場所: 石川県はくいぐん羽咋郡志賀町

■ 事業概要:

排水機場の吸水槽の耐震性が不足することが判明したため、特殊モルタル増厚工法による耐震補強を実施。

■ 事業費: 約3,500万円(令和2年度～令和4年度)
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)約900万円)

■ 災害の外力、被害と効果:

当該施設は地域の排水を担う重要な施設であり、ポンプが機能停止した場合の想定被害面積は118ha、想定被害額は約8.5億円に上る。

令和6年1月1日の能登半島地震では、志賀町で震度7を観測したものの、耐震補強を実施していたことにより、当該施設の損傷はなく、排水機能を維持し、浸水等の被害を防止した。

